



東日本大震災の時にはこの川尻地区を津波が襲いましたが、供養塔に記された教訓が生かされ、この石碑の前に建設された高さ12mの防潮堤と水門によって、川尻地区は犠牲者を出さずに済みました。

川尻津波供養塔は、現在の洋野町役場種市庁舎から1.6km北西にある海岸沿いの野原に立っています。寄託された義援金の一部を使って昭和9年(1934)に建立され、石碑の表には「不慮の津浪に不断の注意」との文言が、裏には津波の犠牲者の芳名が記されています。

昭和8年(1933)の昭和三陸地震では、川尻地区に高さ7mの津波が押し寄せ、家屋の半数が流され107人が亡くなりました。供養塔の東にある川尻漁港も全壊し、多くの漁船が流失。明治三陸地震津波をはじめ、この地区は大地震が起きるたびに、津波被害に見舞われました。

川尻津波供養塔の脇に設置されたパネル。2019年からは川尻地区津波慰霊祭が開催されている。この供養塔により「地震＝津波」の意識を高め、東日本大震災では犠牲者を出さなかった



津波供養塔の表面には「昭和8年3月3日 不慮の津浪に不断の注意 午前3時2分」と記されている。川尻地区はこの石碑の教えを代々伝え続け、震災に備えて避難訓練を地道に続けてきた



津波供養塔のある野原の向こうには高さ12mの川尻防潮堤が続く。防潮堤上部は遊歩道になっていて歩行者の通行が可能。遊歩道を進むと、津波の時に川からの逆流を堰き止める水門がある

●ひろのちよう

## 洋野町

## 川尻津波供養塔

●かわしりつなみくようとう

東日本大震災から地域を救った石碑



最大震度

4

浸水面積

1km<sup>2</sup>

最大浸水高

8.19m



全壊

10棟

半壊

16棟

一部損壊

40棟



死者

行方不明者

負傷者

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠  
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

## ? ? 考えてみよう

Q1 川尻津波供養塔には「昭和8年3月3日 不慮の津浪に不断の注意 午前3時2分」と書かれていますが、この時の被害はどのような規模だったのでしょうか?



## 慰霊碑公園

施設DATA

●かわしりつなみくようとう

## 川尻津波供養塔

なし

MAP P110E4

④洋野町種市第27地割76-19

③三陸沿岸道路洋野種市ICから車で7分

②見学自由

①あり(大型バス:あり)

A1 岩手県で約3000人が死亡・行方不明となり、洋野町(当時の種市村と中野村)でも107人が犠牲となった。そのうち5人の犠牲者の芳名が供養塔の裏面に刻まれている。